

—福祉の調査業務から  
感じること—

桜プランニング 代表  
中村 敦



私は昭和60年代から社会福祉の調査に携わって来ました。平成7年に現会社を立ち上げて10年になります。

私はこの調査の仕事を通じて、高齢者、障害者、子育て、地域活動など、分野を問わず様々な皆さんの暮らしの実態や社会福祉のニーズに接してきました。県下においても、川崎市の精神障害者グループホーム連絡会や藤野町社協の調査などを行ってきました。

私がこの業界に入ったこの20年を振り返れば、社会・経済の変化とともに、社会福祉は文字通りコペルニクス的变化をとげ、現在もその途上にいることは周知の通りです。しかし、この豊かな日本において、日々安心して暮らすことができない方が沢山いることを、私が関与した調査が間接的ながら実証しています。

小さい政府を志向する時代の要請は、措置から契約の時代へ、利用者の自己選択、自己決定、自己責任の時代へと、社会福祉を導いてきました。私は、こうした変化の底流に、競争原理、能力主義の考え方が色濃くあることを痛感しています。そして、調査を通じて様々な生活課題や社会福祉のニーズに接するとき、この競争原理、能力主義の限界を感じることにも少なくありません。

言い換えれば、はじめから競争に馴染まない人や競争を好まない人がいること、すべての人が平等のスタートラインには立てないこと、その結果、能力格差が固定化してしまうこと、お金の換算できない能力は評価されないこと、などとも言うことができます。

社会福祉が社会から独立して成立することはありえません。しかし、現代社会で自明視されている考え方を相対化し、競争原理や能力主義を超えた地平はないのか、と問う視点は失いたくないと思っています。

URL=<http://www.sakuraplan.co.jp>

な出張や残業による就労で、一、一四三件(全体の六十七%)を占め、次に急な疾病(一六八件、九・九%)、そして利用ケースの中には兄弟の用事(学校に保育児を連れて行けない等)もあるとのこと。

利用児の年齢は一〜二歳が全体の半分近くを占め(七七四件、四五・四%)。利用時間は正午から一八時までが一、二四四件(三八・五%)、次に一八時から午前零時までが一、〇〇三件(三一・一%)となっています。

▼Better  
緊急一時保育はBestはな

小川園長は「緊急時でも、可能な限り祖父母なども含めて家族の

中で話し合い、家庭で保育を行なうて欲しい」と願いつつ、「保護者に何かあった時、身近に気軽に頼める人がいないといった環境を考えると、ちょっとした時にこそ保育園が支えることで、保護者に安心感が生まれると思います。そしてまた子育てに頑張ろうという意欲に結びつくのではないのでしょうか。」と話します。

また「子どものために親も頑張っています。その姿から自ずと保育園が何をすべきか見えてきます」と、園としての姿勢の大切さを話されました。

今後の保育施策の期待として「現在は市内のもう一カ所の保育園でも二十四時間型緊急一時保育

が展開されていますが、例えば都市部に限らず、長時間労働や夜間帯勤務がある現実を見ると、『働くこと』と『子どもを育てる』ことが、同じ方向を向いていないことに危惧を感じます。どのようにして保護者と共に手をつなぎ、子育て支援を保育政策の中に位置づけていくかが、今後の保育園の課題ではないでしょうか」と結んでくださいました。

👁️ 今月の視点

生活が多様化し、そこから生じた保育ニーズに対応するために、新たに「特定保育」(保育園の入所基準に満たない週二〜三日のパートタイム勤務などの保護者を対象

とした保育。県内で初めて横須賀市で七月より実施)の取り組みも始まりました。

三回にわたり「子ども・子育て応援プラン」を基に、団体や地域等の様々な取り組みを紹介してきましたが、地域に暮らし子育てをする人々と子育てを支える人々がしっかりと手をつなぎ合うことで子育ての輪を広げ、そこから新たなサービスを生み出していくことがカギになるのではないかと感じました。

(企画課)

あおぞら保育園  
045-481-0087  
5  
(24時間型緊急一時保育室専用)  
045-488-15520